

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 9 月 15 日現在

機関番号：34317

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00303

研究課題名(和文)台湾大学図書館所蔵『日本書紀』諸本の調査と研究

研究課題名(英文) Survey and research of various books of "Nihon Shoki" in the National Taiwan University Library

研究代表者

是澤 範三 (koresawa, norimitsu)

京都精華大学・人文学部・准教授

研究者番号：20554075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：前回科研費(台湾大学蔵『日本書紀』古写本の総合的研究,2009-2010)の成果を継ぎ、『日本書紀』編纂1300年にあたる2020年をめざし、蔵書のさらなる詳細な調査と里帰り展示、および台湾での学会での成果報告を企図し、2019年3月、台湾大学の教員と接触し、台湾大学図書館での文献調査や『日本書紀』の展示企画、および台湾大学で開催予定の和漢比較文学会特別例会開催についての情報・意見交換を行った。しかし、2020年は新型コロナの蔓延による国内国外での移動制限により活動できず、計画していた事項が成果としてほとんどあげることができなかった。そのため経費もほとんど執行するに至らなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年が『日本書紀』が編纂されてから1300年にあたり、それを記念するイベントが各地で開催予定であったが、新型コロナのために、期間短縮、中止などの憂き目にあった。国立台湾大学図書館に、日本の古典籍、特に『日本書紀』に中世・近世の興味深い写本が保管されていることを宣伝する貴重な機会となることを期待したが、かなわなかった。1300年記念としては実現できなかったが、他日、里帰り展示は実現したい。

研究成果の概要(英文)：Inheriting the results of the previous study by KAKENHI, aiming for 2020, which is the compilation of "Nihon Shoki" in 1300, a more detailed survey of the collection and a homecoming exhibition. We planned to report the results at the academic conference in Taiwan. We started preparations from the first year. In March 2019, the research coordinator contacted the faculty members of National Taiwan University, conducted a literature search at that Library, planned an exhibition of "Nihon Shoki", and held a special meeting of the Japanese-Chinese Comparative Literature Society scheduled to be held at National Taiwan University (2020). But last year due to the spread of the new corona in Japan. Due to restrictions on movement abroad, we were unable to carry out activities and was unable to achieve the results of the planned matters. As a result, the expenses were hardly executed.

研究分野：日本語学

キーワード：日本書紀 国立台湾大学 写本 編纂1300年

研究成果報告書

研究課題名

台湾大学図書館所蔵『日本書紀』諸本の調査と研究

研究組織

研究代表者：是澤範三（京都精華大学）

研究分担者：中澤信幸（山形大学）

研究分担者：酒井 亨（小松大学） 2020年9月まで

1. 研究開始当初の背景

大正8年（京都大学）と9年（國學院大學）に開催された日本書紀編纂1200年記念展観会では、日本全国から日本書紀の写本と刊本が一堂に会され活況を呈した。そして、日本書紀編纂1300年となる2020年においても記念イベントが期待されている。

前回（台湾大学蔵『日本書紀』古写本の総合的研究,2009-2010）の成果を継ぎ、『日本書紀』編纂1300年にあたる2020年をめざし、蔵書のさらなる詳細な調査と日本書紀編纂1300年を記念する里帰り展示、および台湾での学会での成果報告を計画した。

2. 研究の目的

- ・台湾大学図書館蔵の『日本書紀』の写本を詳細に調査し、前回に続いて刊行する。
- ・『日本書紀』編纂1300年にあたる2020年に、日本への里帰り展示を企画する。
- ・和漢比較文学会の台湾での分会で成果報告を含めた発表をする。

3. 研究の方法

- ・台湾大学および図書館関係者と交渉し、写本の調査と出版交渉、および、写本の貸与を申請する。
- ・天理大学、または國學院大學での企画展示に、国立台湾大学図書館所蔵の『日本書紀』写本を借り受け展示する。

4. 研究成果

- ・研究分担者が、台湾大学の教員と相談し、計画を進めるためのアドバイスを得た。
- ・國學院大學が2020年秋に、日本書紀編纂1300年記念の展示をする予定であることがわかり、『日本書紀』の平安期の写本の断簡所蔵者を紹介。あわせて台湾大学図書館の『日本書紀』の写本の展示受け入れの意向の打診。（新型コロナの蔓延により、ここで交渉はストップした）
- ・新型コロナの蔓延により、和漢比較文学会の台湾分会開催中止が決定

参考として、2020年度に開催された『日本書紀』1300年紀年の主なイベント記録を掲載する

東京国立博物館

日本書紀成立 1300 年 特別展「出雲と大和」 2020 年 1 月 15 日～2020 年 2 月 26 日（当初の 3 月 8 日までから期間短縮）

皇學館大学

日本書紀 千三百年 一書に曰く（あるふみにいわく）

皇學館大学 大学生テレビ局 第 79 回日本書紀撰上 1300 年講演会

令和 2 年 12 月 24 日

清水潔「稽古照今 日本書紀の修撰」

神話のふるさと宮崎

第 35 回企画展 日本書紀編さん 1300 年「ヤマトタケル その愛と死」

日本書紀編さん 1300 年記念シンポジウム

日本書紀から紐解く「神話の源流」みやざき

日時：令和 3 年 3 月 27 日

場所：小松川さくらホール（東京都江戸川区小松川 3 丁目 6-3）

島根県立古代出雲歴史博物館

企画展「編纂 1300 年 日本書紀と出雲」

期間：2020 年 10 月 9 日～2020 年 12 月 6 日

なら・記紀万葉オンライン講演会

「日本書紀完成・藤原不比等没後 1300 年記念」イベント記念シンポジウム

日時：2021 年 1 月 23 日

京都国立博物館

日本書紀成立 1300 年記念 特集展示

国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍 2021 年 2 月 4 日～2 月 28 日

以上。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中澤 信幸 (nakazawa nobuyuki) (30413842)	山形大学・人文社会科学部・教授 (11501)	
研究分担者	酒井 亨 (sakai toru) (90645350)	公立小松大学・国際文化交流学部・准教授 (23304)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関